

# 水道水が飲める国



札幌市水道局 浪岡 佑宇  
(令和7年度抄録委員会委員)



日本の水道の特徴として、「水道水が飲める国」であることが挙げられます。よく「水道水が飲める国は10カ国程度」と耳にすることもありますが、実際はどうなのでしょう？

## 1) 水道水が飲める国の一覧

国土交通省<sup>1</sup>によると、「水道水をそのまま飲める国」は表-1の9カ国となっています。

図-1の地図を見ると、水源水質の良い北欧に多く集中していることがわかり、アジア圏では日本が唯一となっています。表に名前の無い国においても、一部の地域に限り水道水をそのまま飲むことができる国も存在しアメリカなどがそれに該当します。

表-1 水道水をそのまま  
飲める国

|          |
|----------|
| 日本       |
| ニュージーランド |
| オーストリア   |
| オランダ     |
| フィンランド   |
| アイスランド   |
| デンマーク    |
| ノルウェー    |
| スウェーデン   |

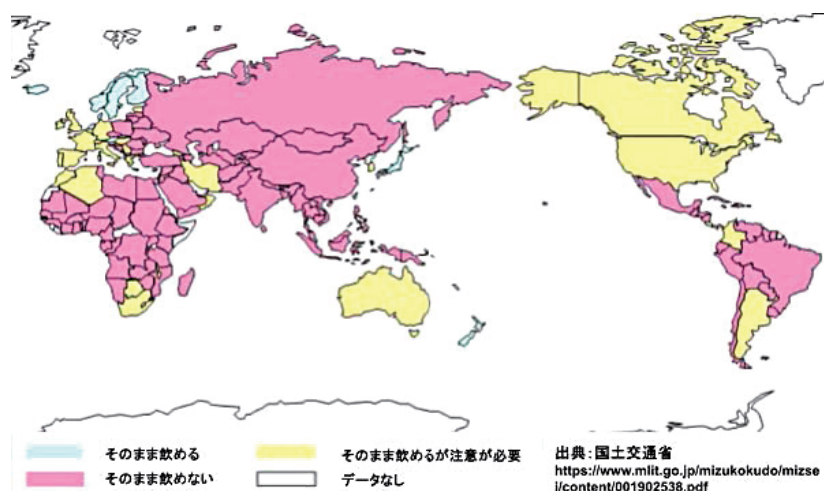


図-1 水道水が飲める国の分布

## 2) 水質の基準は？

「水道水が飲める国」には、何か水質に関する一律の基準があるのでしょうか？ 飲料水の水質に関する国際的な文献には、WHO（世界保健機関）の定める「飲料水水質ガイドライン<sup>2</sup>」が存在します。しかし、このガイドラインの値は守るべき国際的な水質基準値ではなく、国や地域が水質基準を設定する際の「ガイドライン値」として位置づけられています（図-2）。

したがって、「水道水が飲める国」に一律で定量的な基準は無く、各国で定める水質基準が守られており、実際に飲用にされているか、など定性的な考え方に基づいていると言えます。



図-2 WHOの飲料水水質ガイドラインと各国の水道水質基準の関係

## 3) 終わりに

水道水が飲める9カ国以外にも、アメリカやEUなどWHOのガイドラインに準拠した水質基準の国は多く存在します。しかし、直接飲むことができない、または注意が必要であるとされている理由の一つに水道管や給水装置（受水槽など）の老朽化が挙げられます。

日本においても、水道管の老朽化が昨今話題となっており、今後も「水道水が飲める国」であり続けるために、ライフラインの適切な更新を実施していくことが重要です。

1 国土交通省、「令和7年版日本の水資源の現況」第7章 水資源に関する国際的な取組 (P.103).  
<https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/mizsei/content/001902538.pdf> (参照 2025-11-19)  
2 国立保健医療科学院、「飲料水水質ガイドライン 第4版 (日本語版)」.  
[https://www.niph.go.jp/soshiki/suido/WHO\\_GDWQ\\_4th\\_jp.html](https://www.niph.go.jp/soshiki/suido/WHO_GDWQ_4th_jp.html) (参照 2025-11-19)